

【防災メモ】

～日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震と「北海道・三陸沖後発地震注意情報」～

○日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震

日本海溝・千島海溝沿いの領域では過去に大きな津波を伴う巨大地震が繰り返し発生しています。津波の痕跡調査から、この領域では平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の大津波に匹敵する最大クラスの津波を発生させた巨大地震が約 300～400 年間隔で発生したと推定されており、17 世紀に発生した前回の巨大地震・大津波からの経過時間を考えると、最大クラスの津波を伴う次の巨大地震が切迫していると考えられています。

2021 年 12 月に内閣府が公表した被害想定では、この巨大地震・大津波が発生すると、死者数は全国で最大約 19 万 9 千人と想定されています。特に冬季に発生した場合、北海道では吹雪や積雪により避難に時間を要することや、屋外や寒い屋内での避難は低体温症のリスクが生じるといった積雪寒冷地特有の課題があります。ただし、事前の備えと迅速な避難を行うことで人的被害の 8 割は軽減可能とされています。

日本海溝沿いの地震



千島海溝沿いの地震



日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震で想定される津波と震度

○北海道・三陸沖後発地震注意情報

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震は、そのほとんどが突発的に発生するため、平時から防災対策を徹底することが重要です。一方で、この領域ではモーメントマグニチュード (Mw) 7 以上の地震が発生した後、数日程度の短い期間においてさらに大きな Mw 8 以上の巨大地震が続いて発生する事例が確認されています。このような事例は、世界的には 100 回に 1 回程度で、実際に発生する確率は低いものの、一人でも多くの人命を救うため、巨大地震が発生する想定震源域およびその周辺で Mw 7 以上の地震が発生した場合に、その後の Mw 8 以上の巨大地震への注意を促す「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表します。

北海道・三陸沖後発地震注意情報



■ 発表条件
想定震源域でMw7.0以上の地震が発生
※その周辺でも地震の規模によっては発表

■ 発表方法
気象庁・内閣府の合同記者会見

■ 防災対応をよびかける期間
地震発生から1週間

■ 発表の頻度（想定）
概ね2年に1回程度

■ 防災対応をとるべきエリア
津波高3m以上または震度6弱以上が想定される地域など ※左図の着色された市町村

※この情報は、大規模地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっていることを伝える情報であり、情報が発表された場合でも後発地震が発生しない可能性が高いことに留意。

北海道・三陸沖後発地震注意情報の説明

この情報が発表された場合、直ちに避難をする必要はありませんが、防災対応をとるべき市町村にお住まいの方は、普段の生活を続けた上で、1週間程度は地震への備えの再確認、例えば家具等の固定、備蓄品の確認、避難場所・避難経路の確認、家族等の連絡方法の確認、また、津波浸水想定域にお住まいの方は、大きな揺れを感じたり津波警報を見聞きしたりした際に、すぐ避難できるような態勢を整えておくようにしましょう。

巨大地震が発生した場合に、北海道から千葉県にかけての広い範囲で想定される甚大な被害に対し、1週間程度、備えの再確認や迅速な避難態勢の準備を。

枕元に靴等を置いて寝る



すぐに逃げ出せる態勢での就寝



非常持出品の常時携帯

インターネット



緊急情報の取得体制の確保

崩れやすいブロック塀等に近づかない



想定されるリスクから身の安全の確保



日頃からの備えの再確認

地震への備えの再確認と迅速な避難の準備

〇WEB サイト

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」(札幌管区気象台 HP)



<https://www.data.jma.go.jp/sapporo/jishin/kouhatsu.html>

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」普及啓発用動画 (YouTube)



<https://youtu.be/Z3Zou0Z70V4>

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」子供向け動画 (YouTube)



<https://youtu.be/ifDGXKntUik>